

台風第19号により土砂が流入した果樹園の当面の管理について

令和元年(2019年)10月30日

長野農業改良普及センター

1 排水

- ・未だには場内が冠水状態にある場合、明渠等を設けて排水をはかる。

2 排土

・土砂の除去については、災害復旧事業（国庫補助）の対象となる場合があるので、作業着手前に早急に各市町村に相談する。

・土砂の集積所が決定するまでは、ほ場外へは搬出せず、ほ場内に仮置きしておく。

- ・土砂が多量に堆積した場合、根の呼吸が妨げられ障害が出やすいので、土砂を取り除く。

土砂流入が少ない場合（堆積土5cm以下）はそのまま中耕し、多い場合はなるべく樹冠下の土砂を排土し、土が乾いたら中耕を行い根の呼吸作用を助ける。

特に苗木、若木はより影響を受けやすいので、根際部の土砂を早めに取り除く。

なお、樹冠下のみ土砂を排土した場合は、降雨時に排土部分に雨水がたまらないよう明渠等で排水対策を講じる。

・土砂の除去までに時間を要する場合、樹冠下の土砂に生じるひび割れに沿ってシャベル等を差し込んで、地表面より深くまで到達するように割れ目を入れ（土割処理）、土壌の通気性を確保する。

・堆積土により根の呼吸が妨げられることで、「葉の巻き症状」や「早期の黄変落葉」が発生するので、症状が現れたほ場では、早めに排土する。

<作業の優先順位>

冠水状態では根に障害を及ぼすため、まず第1に排水を優先し、ほ場に入れるようになったら、以下の優先順位を基本に排土作業を実施する。

優先順位	種 類	備 考
1	もも、さくらんぼ	耐湿性が弱く、根に障害を受けやすい
2	りんご (苗木や若木、わい化栽培)	根域が比較的浅い
3	りんご (マルバ台木等普通栽培)	過去に発生した冠水事例（千曲川河川敷）では、土砂を排出できなかった場合でも、翌年大きな生育障害は報告されていない

(参考) 果樹の種類と耐湿性

	強 弱	種 類
耐湿性	強いもの	かき、ぶどう、まるめろ 等
	中間のもの	日本なし、りんご 等
	弱いもの	もも、さくらんぼ、あんず、すもも 等